



つちっこ

---

takarako

---

ぼくは つちっこ

ずいぶんむかしに つちになった ずいぶんむかしの ことは おぼえていない

ぼくらは みんなで ちきゅうの 3ぶんの1

ふだんは いろんなおおきさの ひとかたまりで たすけあっている

ぼくのいるかたまりには いっけんの おおきなおうちと ちいさなアパートが たっていた

やさしいごふうふと げんきな おとこのこが ふたり

アパートには とおくから ちかくのだいがくに べんきょうやってきた ひとたち

ぼくらの うえで

わらったり ないたり わらったり おこったり わらったり

ぼくらは ちからもちになって おうちを ささえ

おうちのまわりの きや はなが げんきに そだつように がんばっていた

あのとき までは

あのとき いきなりだった

すごい つよい ちからで したから つきあげられた  
すごい おおきな ちからで よこから おされた  
じしんだった

みんな こわれて みんな いなくなった  
わらいごえ が きこえなくなった

ブルドーザーが やってきて がれきを はこびだした  
つちの なかに どだいの コンクリートは のこしたまま  
ちいさな がれきは ぼくらの なかに まぜこみ  
おもたい くるまで ぼくらの うえを なんども おうふく した

なんねんも なんねんも すぎた

ざっそうが まわりの いえより のび  
たけが そこらちゅうから かおを だした  
つたが ツルを のぼして いろんなものに まきついた  
まっくらに なって ぼくらは わらわなくなった

ふゆの ある ひ

ブーン という くさかりきの おとが ひびいた  
なにも かんがえなくなっていた ぼくらの ところが めを さました  
おじいちゃんが やってきて ざっそうや たけを かりはじめた  
おじいちゃんは ツタのねつこを ほりだし きに まきついた ツルを はずした  
おじいちゃんは まいにち まいにち やってきた

ぼくたちは ひさしぶりに たいようの ひかりを まっすぐに あびた  
みんな みんな えがおに なった  
おじいちゃんは ざっそうを かわかし  
ツルを ちいさく きって つみあげた  
そこは たいひ せいさくば になった

あめの ひ

おじいちゃんは それを ひっくり かえし うえから あしふみ  
「はやく たいひに なあれ」  
「いーい たいひに なあれ」と じゅもんを となえながら

おじいちゃんは  
ぼくらのなかに まじっていた がらくたをのけ  
ぼくらを たがやした

シュツ、シュツ、パツと ほうりあげ きれいな うねにした  
ついでに ねむっていた ミミズも いっしょに ほうりあげられ  
ぼくらのなかに とびこんできた  
げんきに うごきまわり ぼくらを やわらくした

おじいちゃんは うねに たいひを まぜて  
いちごの なえを ひとつずつ ていねいに うえていった

つぎの あめの ひ

ぼくらは いちごの ねっこが みずを すいあげられる ようにと いっぱい たくわえた  
いちごが みずを すいあげた あとは のこりを いそいで かわへと ながした

おてんきの ひ

たいようの ひかりを いっぱい いっぱい ためこんで  
いちごの ねっこを あたためた

あるひの まよなか

ひさしぶりに ぼくらの ところに もぐらが あそびに きた

「いちごの ねっこを きずつけないでね」

「りょうかい！ くうきが いっぱい はいるように してあげるよ」と  
ぼくらの なかで めいろづくりが しまった

はる

いちごに はなが さいた

その はなが みーんな ちいさな あかいみに なった

おじいちゃんは そのちいさなみの ひとつずつに かれくさを ひいた

「おおきく なあれ」

「あまーく なあれ」と じゅもんを となえながら

あかい おおきな いちごが いっぱい

おじいちゃんは いちばん きれいなのを かみだなに

にばんめに きれいなのを おばあちゃんの ぶつだんに おそなえ

おじいちゃんは きんじよの こどもたちを ごしょうたい

こどもたちは いちごを いっぱい ほおぼり

えがおと わらいごえが いっぱい いっぱい きこえてきた

あき

おじいちゃんは あたらしい うねに たいひを いれ  
しゅうかくが おわったいちごの なえから いくつかを えらんで うえかえた

ぼくらは あたらしいなかまと ちからを あわせて なえたちを まもった  
なえは なんぼんもの ツルを のぼし  
ツルの さきに めを つけ ねを おろし  
また ツルを のぼして めを つけた

ふゆ

おじいちゃんは さいしょの うねに たいひを いれ  
のびたツルを きり いちごの めを ひとつずつ ていねいに うえかえた

あるひ

おじいちゃんが とつぜん はたけに こなくなった  
まただ！ ぼくらのなかで だれかが さけんだ  
ふゆの さむさと おなじ くらい つめたく かたく なりそうだった

おじいちゃんは どこへいった？ おそろおそろ なかまに きいた  
とおくのなかまから こえが とどいた  
おじいちゃんは ぼくらの うえの びょういんに いるよ

## 2 しゅうかんご

おじいちゃんだ！ だれかが さけんだ  
おじいちゃんが かえってきた  
ぼくらは ひとつの おおきな えがおに なって  
おじいちゃんが あるく その いっぽいっぽを あたためた

きんじよの こどもが やってきて おじいちゃんに たずねた  
「おじいちゃんみたいに おいしいいちごを つくるには どうしたらいいの」  
「つちの ちからを しんじて まつだけさ」  
「はたけのなかに はいっておいで」

おじいちゃんは こどもを やさしく まねきいれた



